

## 第2回 特別研修会

日時：平成30年6月24日(日)  
場所：ステーションコンファレンス東京  
講師：内田 剛也先生、小川 勝久先生



迫田 竜二 (大分県)



平成30年6月24日、ステーションコンファレンス東京にて第2回特別研修会が行われました。田中譲治会長の開会のご挨拶のあと、午前には神奈川県川崎市で御開業の内田剛也先生による、『長期経過から考えるペリオ=力によるトラブル=知ってもらいたい習慣性咀嚼側に生じる咬合性外傷』という演題で、午後からは、東京都天王洲で御開業の小川勝久先生による、『前歯部欠損におけるインプラント治療とインプラント以外の選択肢』という演題でご講演いただきました。

内田先生は、片側の顎関節円板転位側と習慣性咀嚼側に一致性がある16年経過したご自身の症例を提示され、習慣性咀嚼側での外傷的な咬合力による、度重なる補綴装置の破損や脱離、進行した歯槽骨吸収や歯の病的移動を引き起こすメカニズムを大変分かり易くかつ丁寧に説明してくださいました。長期的に歯周組織を安定させ、機能を維持するためには、歯周組織に炎症や咬合性外傷を誘発しないように配慮する事の重要性を再認識させられました。また、この事はインプラント周囲組織にも当てはまり、力のコントロールを改善することによってインプラント周囲炎が改善した症例も提示してください、細菌感染以外の原因の可能性も考慮することの必要性を感じました。インプラント周囲炎=細菌感染と思っていた輩には考えを改めるに良い症例でした。

小川先生は、まず、オープニングの前鼻棘からの

ブロック骨採取によるGBRの動画を見せて頂き、その大胆かつ繊細な手技に圧倒されっぱなしで、昼食後の心地よい眠気が吹っ飛びました。出席されていた先生方は一様に食い入る様に動画をご覧になっておられました。即興でハンズオンしながら、「初心者でも明日から使えるテクニック」と題して、その凄技を惜しげもなく伝授してくださいました。(実際この場に居ないと聞けません!!)また、インプラント治療が、審美領域での欠損補綴の第一選択肢として確立されている訳ではなく、機能回復に加えて審美性の改善や獲得の要求も高まっている昨今、この相反することを両立させる事の困難さおよびそのリスクについても詳しく講義してくださいました。

また、前歯部欠損補綴での選択肢について、インプラント治療はもとより最新のブリッジ法や接着性ブリッジについても提示してくださいました。インプラント以外の治療法の中から、健全エナメル質の温存が出来て、かつ低侵襲な治療法であり審美性の回復という観点から特に接着ブリッジ法の有用性を講義してくださいました。脱離の問題や、欠損部周囲組織の陥凹に対する審美的改善についての詳細な臨床報告はまだ少ないようですが、今後大いに期待できる分野であるとのことでした。

さらに、この後 CISJ 総会、懇親会と盛りだくさんな一日でした。